

埼玉岳連

埼玉県山岳連盟
埼玉岳連報 第35号

発行者 森下 健七郎
発行所 岳連事務所 天野賢一方
〒333-0823
川口市石神179-40
編集人 岩井田 正昭
発行部数 1600部



本年もどうぞ宜しくお願いします。

巻頭言

埼玉県山岳連盟会長 森下健七郎

新年明けまして、おめでと〜うございます。

昨年度の主要な活動を振り返ってみると、遭対・指導委員会関係では、「全国遭対委員会」を6月末に上尾スポ研で主管しました。また、県内の遭対・指導関係事業を多くの参加者を集め行いました。

自然保護委員会では県内の活動に県の環境部との連携強化をし、県と一体になった活動を推し進める事が出来ました。

海外委員会では9月のたった2名の団塊世代が「チョーオユー登頂成功」という快挙を成し遂げました。他にも各種の海外登山が実践され、報告会が企画・開催されました。

競技委員会では4月には「BWC」を加須市民体育館で主管し、大成功裡に導きました。また、その前の2月には「第4回BJP・川越大会」をR川越で、さらに「第5回BJP・深谷大会」を連続で主管し、成功させました。素晴らしい運営力です。

選手強化委員会では、新潟国体では今年度は惜しくも成年男子・少年男子とも8位以内に入賞できませんでした。(しかし、「今年度は種別・種目とも8位以内・天皇杯・皇后杯でも8位以内」という埼玉国体以来の快挙達成が射程距離にあるようです)

※次葉に続く

ジュニア委員会ではジュニア層の育成・特に
国体強化選手や競技強化関係の協力で貢献、戴
きました。

その他、企画委員会ではクライミング関係行
事で収益を上げる企画を実施しました。また、
事務局や広報等、裏方仕事の活動も滞りなく行
い、次年度に向けて、新たな取り組み・提案等
も掲げています。

この様に、「衣食足りたら、他人の笑顔」を求
めてのボランティア的活動を精力的に行って戴
けた事に深く感謝すると共に埼玉岳連の誇りと
思っています。

今年度は全国的な大きな事業の主管は有りま
せん。

その分、日頃の自分達の岳連活動を見直し、
新たな地固めにする1年にするべく、一緒にな
ってやって行ければと考えています。全体的な
具体的事業や課題としては「岳連HP開設」「会
員証の利用価値拡大」「会員拡大の研究」「公益
的で収益性のある事業創設」等々が有ります。

本年が、会員の一人一人にとっても各単会や
岳連組織にとっても、益々、生き生きと笑顔で
活動出来る事を祈念して新年の挨拶に代えたい
と思います。

小生、柄でもなく会長を仰せつかって早2
年、・・・この間、大きなトラブルも無く、過ごせ
たのは、一重に会員の皆様の協力と支援のお
陰と深く感謝しています。

『平成22年1月理事・新年会報告』

平成22年1月22日(金)19:00～19:30 理事会・(加
藤 新年会)19:30～21:30 (岩井田)川越・「さわや」

出席者・田中文男(浦和)、森下健七郎(高体連)、
柳原政一(小鹿野)、石倉昭一(大宮ACC)、福田
靖(たらっぺ)、天野賢一(遠峰)、瀬藤武(漢稜)、
加藤富之(深谷)、土屋止昭(加須CC)、小茂田
利孝(高体連)、岩崎繁夫(戸田)、岩井田正昭(あ
ゆむ)、長谷川茂(熊谷)、大石智章(高体連)、
熊谷潔(蓮田)、岡野敏(蓮田)、三ツ木達勇(蕨)、
斉藤勝男(蕨)、中島利一(川越)、新井邦男(川
越)、井上深雪(川越)、大成義之(アルピナ)、
鈴木百合子(無名山塾)、堀江伸子(桜草)、塩谷
壽子(大宮)、小高英雄(熊谷アルム)、室伏秀三
(エコー)、佐藤豊(MAS)、伊藤正孝(防衛医
大)、一条英里(防衛医大)、岡崎矢恵(防衛医大)、
平沼伸一(小川)、岩崎元郎(無名山塾)、計良寿
彦(東部) 合計34名 名簿順・敬称略

新春恒例の理事・新年会が昨年と同会場の、川越
「さわや」で開催され、前半は加藤事務局長の司会
で理事会を開催、積雪期登山講習会、日山協の新春
懇談会等の報告が行われた。協議はHP開設につい
て、県体育功労賞推薦について、新規加盟団体(単
会)の加入について、などの協議を行った。委員会
報告は競技委員会、遭難対策委員会、自然保護委員
会、海外登山委員会、ジュニア委員会、広報委員会、
事務局がそれぞれ行った。

理事会終了後は会場をそのまま新年会に移行、司
会は広報・岩井田に代わり天野理事長の開会宣言、
森下会長の新年の挨拶を初めに田中名誉会長の挨拶

飛び込み参加の岩崎元郎さんにも挨拶をいただき新年
会に華をそえた。乾杯の音頭を今年度の日山協表彰
の平沼理事によって行われればし楽しい懇談となつ
た。後半途中から司会の指名により田中名誉会長は
じめ参加者全員の自己紹介、30秒ショートスピー
チが行われ、新入会員の防衛医科大学校の伊藤理事
(会長)から2名の学生さんの紹介もあり、また岩
崎元郎さんからは久しぶりに良き時代の「山歌」が
歌われ万雷の拍手。興を盛り上げて戴いた。
中締めを地元「川越山の会・五十雀」の中島会長
により武州川越締め、最後に福田副会長の閉会の言
葉でお開きになった、写真撮影後二々五々解散した。

記録 広報・岩井田



田中名誉会長 挨拶

《積雪期登山講習会・指導員研修会 報告》

平成22年1月16日・17日 那須・大丸温泉

講師：主任講師・佐藤博・講師・鈴木一美

野村善弥、金子昭、秋葉栄、瀬藤武

受講者：(研 修) 計良寿彦、

(中上級) 柴崎英保、千葉弓子、榎本初

江、武田千恵子、岡田文子、山本弥生、

村林淳子、岩本吉男、鞠子皓一、伊藤

正孝、門出郡平、中島正敬、横井謙介、

平和昭、岩井田正昭、

(初級) 増田修、恩田勝紀、若狭千江子、

三木英恵 計26名

指導委員会主催による今年最初の「講習／研修会」が那須岳山腹で開催された。積雪期登山の安全登山普及と技術向上を目的に掲げ、主任講師に山岳ガイドの佐藤博氏を向かえておこなわれた。初級クラス、中上級クラス、研修クラスに分かれそれぞれのクラスには上級指導員が講師となり実技講習を主体にスキー場最上部の斜面を使って行われた。最近降った雪面はトレースがなく先発班は先行ラッセル。胸まで没する雪面に全員交代でトレースを刻む。斜面を利用して、基本である初日の研究テーマ・滑落停止法などをメインに行い、宿舎に戻ってからは座学でロープワークを講習し初日は終了。

2日目のテーマはスタンディングアックスピレ、自己脱出方法、雪上でのアンカー支点の作成方法を学んだ。雪降りしきる中、風もでて本番さながらの雰囲気な冬山の厳しさを体験。ちなみに気温はマイナス15度位か。午後1時過ぎから下山し、旅館の前で野村指導委員長の挨拶後、閉講式を行い散会した。

記録 広報・岩井田



講習会終わって参加者全員



風雪の中、指導する佐藤講師

『積雪期登山講習会に参加して』

平和昭

今回初めて、積雪期登山講習会に参加させていただき大変貴重な経験をする事ができました。

指導してくださいました埼玉県山岳連盟の皆様には厚くお礼申し上げます。

私自身、山岳救助隊へ配属となり、まだ経験浅く積雪期の訓練は数えるほどで、ピッケルの持ち方一つにしても見よう見まねで満足なものではありませんでした。

そんな私が今回の講習でピッケルを使用した滑落防止の方法や支点の確保方法をマスターできたことは、今後の山岳遭難現場での活動に大きな自身となりました。

また今回はセルフレスキューの講習もあり普段とは違った環境の中で、分厚いグローブを装着したままのザイルワークやシステムの作り方は、不器用な私にとって苦戦の連続でしたが、講師の方々の熱心なお陰で何とか、普段のチームレスキューとは違った救助方法を学ぶことができました。

本来であれば登山者すべてが、セルフレスキューテクニクを身に付け不測の事態に備えなければなりません。

私自身、今回のこのような講習の機会に恵まれ多くの知識、技術の習得に努める事が出来ましたので、今後は一層の向上アップを図るとともに、登山者に対する講習の場での指導に役立て山岳遭難事故が一件でも減ればと思っています。

最後に、今回参加した皆様と色々な話ができて、人と人のつながりが出来たことは大きな収穫となりました。

※編集注 筆者は埼玉県警山岳救助隊員

『積雪期登山講習会所感』

防衛医科大学校山岳同好会 伊藤正孝

先日、1月16日(土)と17日(日)の両日、栃木県那須茶臼岳山麓で開催された平成21年度積雪期登山講習会に、防衛医大山岳同好会から初級者クラス1名、中上級者クラス2名の、計3名(うち2名は初参加の医学科学生)が参加した。私(筆者)はかつて防衛医大在学中にこの講習に参加したことがあるので、二十数年ぶりの2回目の参加ということになる。

講習会場となったスキー場脇の斜面は数十センチの新雪で覆われており、初日の開講式の後、訓練斜面に行くまでは受講生全員の交代によるラッセルとなった。私にとっては今期初めてのラッセルであった。ところによっては腰まで達する雪をかき分けて進むのであるが、ラッセルをしているのか、単にもがいているかわからないような歩みの遅さである。しかしながら、ちょうど良いウォーミングアップとなった。訓練斜面に着くと、新雪の斜面を皆で踏み固め、幾度も尻セードをして雪面ならして訓練ゲレンデが完成した。気温はマイナス13度。終日小雪が舞っていた。この日の中上級者の主な訓練事項は各種滑落停止であった。

思えば、二十数年前、初めてこの講習に参加した際(当時は富士山で開催されていた)には、フルボデイハーネスを装着して参加したことを覚えている。あれから世紀も変わって、装備も技術も随分と進歩した。今回初日に練習した、ピッケルを使った滑落停止の技術を、私は高校山岳部在籍中に初めて学んだ。あの頃のピッケルを使った滑落停止の訓練では、グラウンドの砂場で勢い良くひっくり返っていたものだが、その方法は今回「危険につき禁止」となっていた。この際、初心に返って技術を学び直すように

思った。佐藤博主任講師を中心とした講師の先生方の懇切丁寧な御指導により、昔学んだ技術を次々とリニューアルさせることができた。

宿泊先の旅館は源泉掛け流しの名湯である。訓練の疲れを癒すにはちょうど良い湯加減であったが、露天風呂に入ると、すぐに頭髮が凍った。

初日の晩も雪は降り積もり、2日目もラッセルとなった。わずかに残るトレースを辿るのは、ルートファインディングのよい練習にもなった。2日目はスタンディングアックスビレーを中心とした確保と救助法の講習であった。アンカーや土のう袋を用いた支点の構築では雪中に少し埋めただけで強い保持力が得られることにとても驚いた。防衛医大山岳同好会の普段の技術レベルからするとかなり高度であったが、雪山の厳しさや奥深さを知るにもよい訓練だと思った。積雪期登山講習会は単に登山技術の練度を向上させるのみならず、雪山登山という人類にとつて極めて困難なチャレンジをするにあたって、心のハーネスをも引き締められるという、精神的効果もあるのだと感じた。私とともに参加した2名の学生にとつても、今回の講習はきわめて貴重かつ重要な体験であったに違いないし、私共の山岳同好会の会員の士気と技術の向上に大きく資するものとなったはずだ。今回の講習会を企画、立案してくださった梶岳連指導委員の皆様と、今回ご指導くださった教官の皆様様に改めて感謝したい。山行において安全は全てに優先される。その安全を高めるものは自己の技術と知識と体力である。この3者を更に深めるべく、経験と訓練を重ねてゆきたい。今シーズンの積雪期の残されたあと2、3ヶ月の間に、今回学んだことを実地で復習しておこうと思う。楽しく安全で少しエキサイティングな積雪期山行をめざして、次の山行計画を練る今日この頃である。

21年・夏の記録《屏風レポート》

大宮アルパインクラブ

8月13日 天気 曇りのち晴れ

(午前) 上高地く横尾、(午後) 横尾くT4取付

昨夜の3時過ぎに沢渡駐車場に到着2時間の仮眠をとる。朝起きると、石倉パーティがすぐそばにいるのを発見。一緒に上高地へタクシーで入る。上高地では思わぬ方と遭遇。なんと元OAC宮崎さん、もとい休会中の宮崎さん。名古屋の方と一緒に入ってきていた。山屋らしく山で再会できたことありがたい。そこからだらだら歩いて、横尾着。石倉パーティとはそこで分かれる。うまくいけば明日酒沢で合流だ。天気は雨が降っている。午後予定通り、T4の取り付きまで下見に行く。途中梓川の渡渉があるのだが、これがつらかった。「足がくさるっ!」とは福原さん。村上さんは冬の屏風をここで渡つたらしい。考えただけでも足がむずかゆい。それから、小さな沢を詰めてT4の取り付きへ。屏風のルートに登るまでにはT4尾根を登らないといけないのだが、このT4尾根が半端じゃない。あるルートガイド集によると、冬は雪稜や東稜よりもこちらが難しくなるとのこと、今は雨雲に隠れて全容が見えない。明日晴れることを祈りつつ、屏風を後へ。またも足がくさる思いでテントに帰り、明日出来るだけ荷を軽くするために、食料をたらふく飲み食いして就寝。

8月14日 天気 快晴!

08:00・起床、4:00出発、5:00・T4の取り付き着
7:15・順番待ちの末、登攀開始(く)菅野、09:00・
雪稜取り付き着、10:00・順番待ちの末、登攀開始(B)

▽菅野 50mコーナーク小ハングII:20・V+村上40m
ピナクルテラスを右にまわりこみ細かいフェース・
13:15・W村上50分の順番待ち35mアブミ登攀VI・
14:30・IV+村上・14:30・IV+村上 ルンゼ〜濡れ
岩の支点の少ない人工&フリーのスラブ15:30・V+
村上 ルンゼ状スラブ、16:30・W村上 傾斜の緩
いルンゼ状スラブ、16:30・W村上 脆い草付きルン
ゼ、17:02・登攀終了〜屏風の頭〜涸沢へ、20:00・
涸沢到着

朝晴れている。もともとと準備し、いざ行へ。Fは
はすでに何人も待っている。こりやだいぶ待ちそう
だ。雨具を乾かす。2時間ほど、待った後登り始め
荷物を村上さん、福原さんにだぶ持ってもらって
いるので、つづら岩トレより楽だ。出だしを抜けて
村上さんが「さすがっ」と言ってくれた直後に濡れ
た岩に足を滑らす。まだ乾いていないので、少し神
経質に上る。アプローチにしては辛い。Wに着くと、
やはり待っている。Wの下では12人待ちだった。
ここでは、半分くらいは東稜に行っている。それ
もテントを乾かしたり、靴を乾かしたりする時間は
十分にある。ようやく、出番。1P目のリードであ
る。ジェードル〜ハング部分で前のパーティは苦勞
していたが、果たしてどうか。出だしはとも気持
ちいい。安定して登れるし、高度感も抜群で余裕で
行く。後半核心部に近づくと、とたんに足が出ない
のパーティは苦勞していたが、果たしてどうか。出
だしは行く。うーんどうやってこのジェードルを超
えるのか思索しているのだんだん疲れてくる。アル
バインで登るときは絶対落ちられないので、頑張っ
ても8割の力でいけるように気をつけていたので、自
分の身体と相談しながら登る。小ハングを越える
ときは怖かった。手はそこそこ疲れているし、狭いと

ころを体制変えないといけないし、だんだん余裕が
なくなってしまう。とにかく早く出たいがために、
えいやと力技でぬける。その後は、呼吸を整えな
がら、ピナクルテラスへ。私のリードは今回こま
ま。ここからは村上さんがリード。

2P目。ピナクルテラスを右に出て、見えなくな
る。ロープの出の悪さを見るとここも難しそう。ル
ート図では5級だ。福原さんが行ったのち、私が最
後回収しながらいく。どうみても10だろうという
ところ、迷わず、残置シュリングをつかむ。後で聞
くと、みんなさだ。よかった。この後のフェースも
して気は抜けなかった。3P目。Wのアブミの人エ
ルト。先行パーティのフォローがアブミ3P目。
このアブミの人エルト。先行パーティのフォロー
がアブミをかけた腐れシュリングが切れる。いま
で切れるのをみたことはなかったが、やっぱり切
れるんだ。さすがにアブミのルートでは時間がか
かった。アブミは今年の冬八ヶ岳大同心ドーム稜から
始まり、何度かやってきているので、あのとき程の
恐怖感もないし、余裕もできてきた。なかなか楽
めた。4P目。特になし。5P目。ここから、福原
さんがリードの予定であったが、かなり時間が遅
くなってしまっているため、村上さんが継続してリ
ードに。福原さん残念！またこないとね。フェースは、
ぬれていた。人工とフリーのミックスで登る。コン
ディションは悪い。かなり難しかった。6P目。こ
こも難しい。時間を気にしていたので、Wででき
るところはして、早く抜けることを心がける。あとで、
コースタイムを見ると、この最後の方のピッチはや
たら早い。7P目。前のパーティが懸垂で降りてき
ている。すでに時間は4時をまわっている。8P目
がとばしたか。8P目。草付きルンゼ、3級とはい
え、難しかった。脆い脆い脆い。んで何とか登攀終

了。まだほつとはできない。我々は懸垂で降りるの
ではなく、これからが長いのだ。少々休んで、やぶ
こぎで屏風の頭へ詰める。少し登って、自分がば
始めていることに気づく。なんだかんだ行ってかな
り体力を使っていたのだ。ろくに栄養補給もせずに
登っていたので、気がつくとも身体が重くなっていた。
道は悪い。ハクサンシヤクナゲの間をくぐり、また
ぎ、腕をこすられ、身体に鞭を当てられ、苦痛のや
ぶこぎ。ブルーベリーが道々になつていたので、栄
養&水分補給のために食べながら歩く。これでは
まるでクマだ。屏風の頭に出ると、眼下のはるか遠
くにカラフルなテントの一群が。今日中につける希望
をもちながら、バテバテの体を引きずってひいひい
歩く。屏風の頭からは一般道だと思つてたかをく
つていたら思った以上に悪い、いや今のコンデシ
ョンだから悪く感じるのか、気がついたら、福原さん
ばてている。林の中に入ると真つ暗なので、ヘッド
ランプをつけて歩く。テント場の20分手前で一休憩
梅干があつたので、みんなで食べる。みんなです
っぱい梅干に感謝する。私はレモンの粉を飲んで、糖
分補給。身にしてみる。なんとか涸沢についたのは8
時。小屋の前には偶然にも石倉パーティの小暮さん
と正田さんがようやくついた。あまりに過酷な1
日の山行に3人感極まって両手でダブル握手。生ビ
ールの時間は終わったので、自販機で缶ビールを買
って乾杯。小暮さんたちが、つまみと酒を持ってき
てくれた。ありがたい。しばらくそこで休んでから、
テントを張る。すぐに寝たいところだったが、明日
もあるので、義務的にメシを作ってたべ。就寝
10:00過酷な山行はまだ続くのだ。

※紙面の都合により次号へ続く

第五回ボルダリングジャパンカップ

埼玉・深谷大会

平成21年11月21(土)〜22(日)

主任審判員 十屋正昭

平成二十一年のボルダリング競技は、埼玉では三月に川越で第四回のジャパンカップを実施し、四月には日本初のワールドカップも加須で行っている。

まさか、十一月に深谷で第五回のジャパンカップを主管することになるとは、誰がゆめゆめ想像出来ただろうか。『困った時の埼玉頼み?』それだけ、頼られていると云うことか。大会の内容や写真は、興味のある方なら既にロクスノやHP等で見ていることだと思う。ここでは、私の携わった部分を少し紹介します。

深谷のジムは、六月にオープンしたばかり、まだ客足が悪いとか? ピーアールを兼ねて中央に打診したらしい: それを受け北山さんがOKしたそう。とあくまで岳連内の想像であるが:。そんなこんなで、話の大筋が決まったような形でどんどん進み、埼玉でやるなら主担当は、私の所属している競技委員会となった訳です。森下会長から、大会当日までの中央との段取りはするので、後は競技委員会が中心となり対応するように言われ、急いでメンバーを探した。

まずは、お願いすれば、引き受けてくれる頼もしいメンバーを選んだ。深谷開催なので、地元の高山会に加藤事務局長がいて何より心強い、加須の大会とは違い幾分その点気楽だ。それから、ジムの下見に行つて驚いたのは、ク

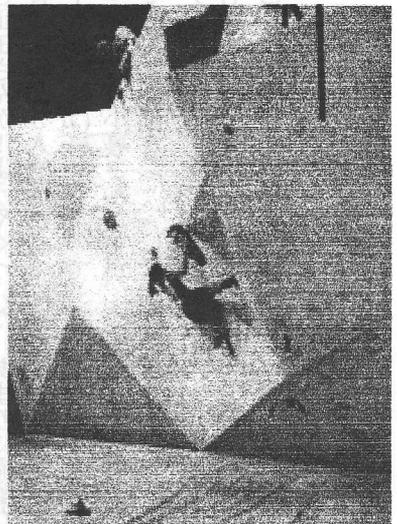
ライミングの経験者が全くいないこと。店にいるのはフットサルの指導者のみ。大会の運営は、全てお任せだと言つ。まあ、ゴルフ場やフットサルクラブ、スポーツジムを経営している会社なので、ひと通りの道具は揃っている。近くにホームセンター等が点在してあつて、準備には事欠かない。私は仲間たちと、大きなボルダリングマットや小さなマットとクリーニングブラシを加須や飯能から二日前に運搬し、前日にバナーを貼つて、当日を待つ。大会の二日間は、やはり寒かつた。特に初日の男子予選は、参加人数が多くて休憩が出来ない。ベルトコンベアー式の辛いところ。北山さんから、「長時間で大変だから、いつでも交代するよ」と言われたが、ついに弱音は吐けなかつた。

埼玉県勢の予選落ちには、正直ガツカリし衝撃も受けたが、普段の実力からして課題の得意・不得意も影響したように思う。その点では、あまり極端な悲観はしていない。

ただし、若者は着実にボルダー志向に傾いており、他県の選手がレベルアップしていることも事実です。優勝は、男子が堀さんと女子は野口さん。大方の予想通りでしょう。でも、女子のスーパーファイナルは想定外では? ジャパンカップのボルダリング大会では、史上初です。

中央の大会は、日山協から役員が来て運営するのが埼玉では一般的でしたが、競技委員会が主任審判を経験した事は、これからの貴重な財産となることでしょう。

ほぼ予定通り終了し、雨の降る前に撤収が終わわり、加須の関根さんとマットを運搬して、飯能経由で加須に着いたのは午後十時を少し過ぎた頃でした。選手・役員の方皆さん、お疲れさまでした。



優勝した野口選手

☆ 成績 ☆

- 男子一位・堀 創、二位・安間佐千、三位・茂垣敬太
- 女子一位・野口啓代、二位・小田 桃、三位・安田あつ



日山協・高山委員長から賞状授与

『平成21年12月常任理事会報告』

12月8日(火)午後7時30分

北本市中央公民館 第4会議室

出席者・森下健七郎、柳原政一、石倉昭一、天野賢一、岩井田正昭、野村善弥、長谷川茂、岩崎繁夫、鎌田雅浩、小茂田利孝、土屋正昭・加藤富之、他大石智章、町田周一・欠席・福田靖、瀬藤武、大倉至。

1・開会挨拶(柳原副会長)新井新太郎氏の祝賀会では大変お世話になりました。

2・挨拶(森下会長)

3・報告

(1) 11月14日・海外登山報告会・さいたま市一般十役員計52名参加 ※5隊の報告でバラエティであった。

(2) 11月21日〜22日第5回ボルダリングジャパンカップ・深谷 ※初めてスパーファイナルを女子で実施。

(3) 11月28日〜29日・冬山遭難防止講習会・上尾スポ研 ※28日・豊秀彦先生の講習 29日搬送訓練・県警山岳救助隊の講演会。 ※リピーターが多く高度な講習会になっている新たな参加者を増やしたい。

(4) 11月29日 県民総合体育大会 コバトングライミングカップ・加須 75名参加 ※初めて視覚障害者の方が参加した、全国から10名程参加。

4・協議

(1) 平成21年度の課題について

①ホームページの開設について

・予算(BJCの10万円を初期開設費用に充てる) ※次年度は予算化。初期開設費10年間契約

料15万担当者手当年間計5万円(1〜2名)・担当者を公募する。公募1月〜2月末、2月には、担当者の決定。3月から準備して、4月より正式公開。

・チラシ等の作成・森下、常任報告や会報で知らせる。また、独自に候補者を推薦してもよい。

②個人会員制度について 関東地区山岳連盟總會にて、各県に実状を聞く。

・会費等の増収、無所属登山者の組織化に繋がればよいが、デメリットは無いのか?

(2) 会員証の協定について (協定書案参照) (加藤)

①協定文書 原案を一部訂正

②協定締結について 新規施設については、会長等代表者が直接訪問し交渉・締結。既存の施設については、担当者が締結。1月より開始。

③協定施設には、会則等も配布する。HPでの情報提供も。

(3) 関東地区山岳連盟連絡協議会(2月13日〜14日)について

①参加者・森下会長、天野理事長

②協議事項について ア・関東クライミング大会の種目の開催費決定権について

イ・個人会員制度の実状の聴取(各所)

(4) 各委員会の委員の増員と活性化について

・委員を一般会員から募集する。自薦・他薦可 委員長の本釣りも可。

・理事に拘ることなく新委員入れて、活性化を図る。

(5) 県体協・功労賞の推薦について(加藤) 歴代受賞者名簿を参考にして平成21年度推薦者(大倉至元事務局長)理由

(クライミング委員会・初代委員長を長年務め、県内のクライミング競技力の向上に尽くすと共に、埼玉国体や関東ブロック大会、2度のワールドカップ埼玉開催に尽した功績)

(6) その他

①日山協・臨時理事会報告資料から(加藤) 来年度事業・予算等について参考にした

(加藤) 組織は、登山部・競技部に統合されて、落ちついたようだ(森下会長)

②事務局大倉氏について3月末をもって全面的に岳連役員を退任。治療に専念。選手強化関係の担当者(後任)の選定。

③理事会兼新年会 1月22日(金)川越「日本料理さわや」(幹事・森下、岩井田) 会費5千

※別途案内書により申し込み下さい。理事以外の方の参加も歓迎します。

④県内の「協賛企業」の応募を検討したい。(森下会長)

⑤日和田山での「ヘルメット着用」を県内の山岳会へ流して欲しい、

※事故防止の為、2年前から運動をしている。

5. 各部からの報告等

①指導委員会

○1月16日〜17日 積雪期登山講習会・指導員研修会(要項配布済み)

○2月27日〜28日 緊急避難講習会(雪洞研修含む)

②競技委員会(国体委員会・クライミング委員会) ○11月29日第22回県民総合体育大会コバトングライミングカップ(加須市民体育館)

○12月20日 加須市ボルダリング大会 希望者はお問い合わせ下さい。どなたでも参加可能。

○1月30日～31日 競技委員会ブロック別
研修会 (関東地区・群馬) 土屋・小茂田・加藤
参加予定。

※クライミング関係者でクライミング審判員をも
っていない人は参加しましょう。

③選手強化委員会 別途資料参照

④遭難対策委員会 11月28日～29日平成21年度冬山遭難防止
講習会 (上尾七尾スポ研)

○1月29日～31日 日山協・山岳レスキュー
講習会 (積雪期・東部地区) (土合山の家)

⑤自然保護委員会
●岳人の家 (旧三峰分校) 補修作業11月14日
～15日 5名参加

○第3回自然観察会「冬の雲取山」開催
3月13日～14日 (要項同封)

○自然保護委員会と第1回自然観察会開催
4月11日～12日

⑥海外登山委員会
●海外登山報告会 11月14日～大宮ソニック

○12月17日・谷口けい講演会 (国立オリセン)

○2010年バルチャモ (618m) 登山隊 幹旋。

⑦ジュニア委員会
○高体連新人大会 2月6日～8日 福島
県・野地温泉 (ワカンとスキー)

⑧広報委員会
○平成22年1月30日・35号発行予定 原稿提
出 (1月17日・締め切り) に協力下さい。

※原稿募集中 各会情報誌、各会案内、山行レ
ポート等お寄せ下さい。

⑨事務局
○日山協・平成22年新年大会アルカディア市ヶ谷
↓平沼氏招待※参加希望者は、お知らせ下さい。

誰でも参加できます。会費1万円。

○日山協・個人参与会員 (参与) 拡張のお願い
※希望者はお知らせ下さい。

現在：田中文男、大野幾雄、新井宏司、大久保
孟、平沼伸一、北田絃一、柳下明男、浅見豊、
山口定男、柳原政一 以上10名

6. 閉会挨拶 (石倉副会長) 今年一年ご苦労様で
した。事業も順調に推移しています。良いお年をお
迎え下さい。

■次回・理事会兼新年会1月22日 (金)
19:00～ 川越市「yuwa」

■常任理事会 2月9日 (火)
19:30～ 北本中央公民館

■理事会 3月9日 (火)
19:30～ 北本中央公民館

◆平成22年度・議員総会 4月18日・時間未定
★發送済みの資料等については、ホームページで
手に入れることができます。ご利用ください。

◆HP <http://saitama.web.fc2.com/index.htm>

【事務局便り】お知らせ 2月以降のスケジュール

☆指導委員会 参加者募集中
2月27～28日 緊急避難講習会・谷川岳

☆自然保護委員会 参加者募集中
3月13～14日 第3回自然観察会・雲取山

4月10～11日 自然保護委員会総会

☆海外登山委員会
2月10～11日 日山協海外登山研究会・さき
3月上旬 (20日間) 千葉国体リハーサル

☆選手強化委員会
3月26～27日 ユース東京大会・久留米
6月5～6日 千葉国体リハーサル

☆事務局 詳細はHPでも公開しています

左記の専門委員会・委員を公募します。

専門委員会 (指導・クライミング・団体・選手
強化・遭難対策・海外登山・自然保護・ジュニ
ア・広報・企画) に所属し協力戴ける方

☆平成21年度の日山協・表彰を平沼理事
(小川山の念) が受賞されました。

☆平成21年度の県体協・功労賞を大倉至
(高体連) 元事務局局長が受賞されました。

☆平成21年12月より新規加入されました
山岳同人・比企 代表 大山 光一

《訃報》 田山 勝 さん

★元県岳連・海外登山部長、日山協・海外委員長
を歴任、前穂高岳東壁Dフェースの初登攀 (昭
和34年) の記録を持ち、埼玉岳連初のヒマラヤ
「ハラムシユ登山隊」の登山隊長を務めました。
12月18日 逝去・享年75歳。

編集 後 書

県内でゲレンデと言えば日和田山と思いつくほど
歴史あるこの場所は、存知のように私有地であり、
数年前に多発した死傷事故や、心無いクライマーが
地主とのトラブル起こし、立入禁止といった処置に
発展したいきさつがある。(現在は改善された)

クライミングを楽しむのは勝手だがマナーが守ら
れないのは山や側の問題。いまだに一部のメンバー
がヘルメット装着しないのは何故だろう。外岩と言
われる自然岩ならばこそ必携品ではなかるうか。近
くの天覧山で岳連講習会時、隣で練習していた他の
メンバーが落石を起し、コールもなく、10人ほ
どの内数人はヘルメットなし。事故を起こすなど
「ヘルメット着用」のアップीलは残念なメッセージ。
《niwaidamua.biglobe.ne.jp》